令和６（2024）年度 家庭教育支援プログラム指導者研修③ 実施報告

実施日：令和６（2024）年７月 23 日（火）

○　説明・演習「コミュニケーションの技法について」

安足教育事務所ふれあい学習課　副主幹　齋藤　秀則

家庭教育支援者に必要なコミュニケーションの技法について説明がありました。ポイントとして、伝えたいことが正確に伝わる状態があるべきコミュニケーションであり、そのためには自分の思いや考えを正確に伝えるだけでなく、相手の思いや考えを正確に受け止める力が必要であることを学びました。また、アサーティブな表現、リフレーミングについては、相手も自分も大切にする表現を考えたり、ネガティブな表現をポジティブな表現に変えたりする演習を行いました。

今後の活動に生かせるコミュニケーションについて理解を深めることができました。

○　説明・演習「ファシリテーター演習に向けて」

総合教育センター職員

地域でプログラムを実施する場合、家庭や子どもを取り巻く課題課題や相手のニーズ、時間など、参加者の実情に合わせて既存のプログラムを再構成する必要があります。

受講者は、実践場面を想定し、プログラムのねらいを確認しながら、アイスブレイクやワーク、振り返りなどを効果的に実施できるようプログラムを再構成しました。その後、個人で再構成したプログラムを基に、グループで積極的に意見を出し合い、よりよいプログラムになるようブラッシュアップをしました。

☆　受講者の声（アンケートから）

・コミュニケーションの大切さや、どのように伝わったのかが重要であることが分かりました。アサーションという言葉を初めて知ったので、自分と相手が Win-Win の関係を築けるように考えていきたいです。
・リフレーミングで言葉を変えると、相手とのコミュニケーションを良い雰囲気で進めることができそうです。また、プログラムの再構成はとても勉強になりました。これからの活動に役立てたいです。
・今回の展開案を基に、次回、ねらいを達成するための効果的な展開を作り上げていきたいです。
・コミュニケーションの技法の中で、どう伝えたかではなく、どう伝わったかが大切であることなど、日頃忘れてしまっている大切なことに気付きました。また、プログラムの再構成では、「ねらい」を外さないことを体験できました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206　e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp